

令和6年度 病害虫発生予察注意報 第5号

令和6年9月18日
千葉県農林総合研究センター長

トマト黄化葉巻病の発生に注意

1 注意報の内容

- (1) 対象作物及び病害虫名：トマト・ミニトマト、トマト黄化葉巻病（TYLCV）
- (2) 発生地域：県内全域
- (3) 発生量：多

2 注意報発令の根拠

- (1) 8月下旬に行った夏秋トマトの県内10地点の巡回調査において、トマト黄化葉巻病の平均発病株率（1ほ場あたり100株調査）は、16.20%（平年1.48%）と、過去10年と比較して最も高かった（図1）。
- (2) 同調査において、トマト黄化葉巻病ウイルスを媒介するタバココナジラミの成虫寄生株率（1ほ場あたり25株調査）も、46.80%（平年4.82%）と、過去10年と比較して最も高かった（図2）。
- (3) トマト黄化葉巻病は、感染してから発病までの期間が長く、健全に見えている保毒株が今後発症してくることが予想されるほか、タバココナジラミの多発による感染株急増に注意する必要がある。
- (4) トマト黄化葉巻病ウイルスを保毒したタバココナジラミが次の作型のトマトほ場へ移動することによる、被害の長期化が懸念される。

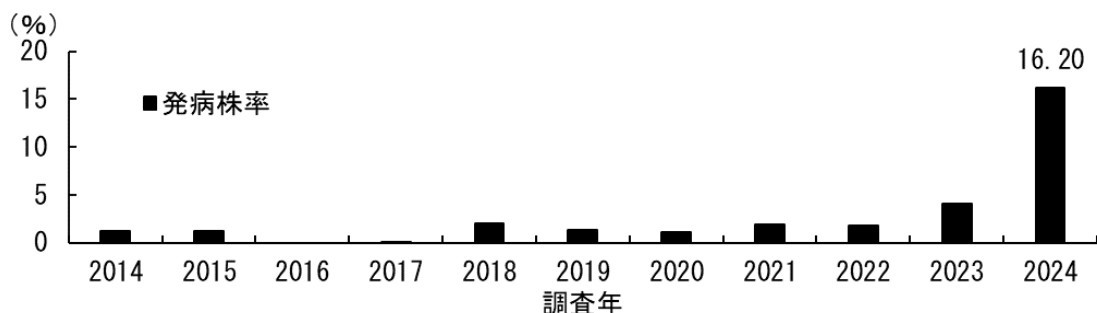


図1 夏秋トマト8月下旬調査におけるトマト黄化葉巻病発病株率

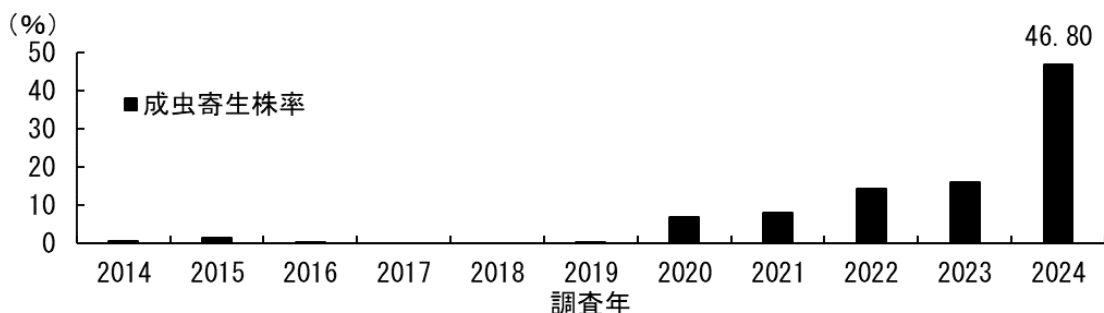


図2 夏秋トマト8月下旬調査におけるタバココナジラミ成虫寄生株率

3 防除対策

(1) 伝染源の除去

- ア 発病した株を治療する方法はなく、全身に保毒しているため、発病株は見つけ次第抜き取り、ビニール袋等で密閉して枯死させてから適切に処分する。
- イ ハウス内外の野良生えトマトがウイルス感染した場合、本病の伝染源となるため除去する。また、野良生えトマトが発生しないよう、トマト残さは野積みにせず、埋却等適切に処分する。
- ウ 黄化葉巻病耐病性品種は、発病していなくても、保毒して伝染源になることがあるため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。

(2) タバココナジラミの防除

- ア タバココナジラミの施設内への侵入及び保毒虫の逸出を防ぐため、開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を展張する。
 - イ ネットやフィルムが破損していないか点検し、必要に応じて補修する。
 - ウ 施設の出入口を二重構造とし、入退室時にはコナジラミ類が衣服や資材に付着していないか注意する。
 - エ ほ場内や周辺の雑草を除去してほ場衛生に努め、コナジラミ類の生息場所を無くす。
 - オ コナジラミ類は多発すると防除が困難となるため、黄色粘着板を施設内に設置し、成虫を捕殺するとともに、発生初期に薬剤防除する（表）。
 - カ 薬剤の選定にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統（IRACコード）が異なる薬剤のローテーション散布を行う。また、マルハナバチや天敵昆虫を利用している場合は、影響日数に注意して薬剤を選定する。
 - キ 散布むらがあると薬剤の効果が低くなるので、植物体の全身に薬剤が十分にかかるよう丁寧に散布する。
 - ク 栽培終了後は、雑草も含めてハウス内の全ての植物を抜根した状態でハウスを密閉して、完全に枯死させてタバココナジラミを死滅させ、次作にウイルス・コナジラミをつながない。
- ※ トマト黄化病（ToCV）もコナジラミ類によって媒介されるため併せて発生に注意する。



写真1 トマト黄化葉巻病の症状



写真2 タバココナジラミの
成虫・蛹・幼虫・卵

※ 写真はいずれも千葉県農林総合研究センター原図

表 トマト及びミニトマトでタバココナジラミに散布使用できる農薬（令和6年9月11日現在）

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数		使用時期	本剤の使用回数		散布液量 (L/10a)
		トマト	ミニトマト		トマト	ミニトマト	
4 A	バリアード顆粒水和剤	2,000~ 4,000 倍	4,000 倍	収穫前日まで	3回以内		100~300
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000 倍		収穫前日まで	3回以内		100~300
5	ディアナSC	2,500 倍		収穫前日まで	2回以内		100~300
6	アニキ乳剤	1,000~2,000 倍		収穫前日まで	3回以内		100~300
	アフーム乳剤	2,000 倍		収穫前日まで	5回以内		100~300
	コロマイト乳剤	1,500 倍		収穫前日まで	2回以内		100~300
9 B	チェス顆粒水和剤	5,000 倍		収穫前日まで	3回以内		100~300
15	ノーモルト乳剤	2,000 倍		収穫前日まで	2回以内		100~300
	マッチ乳剤	2,000 倍		収穫前日まで	4回以内	2回以内	100~300
23	クリアザールフロアブル	2,000~4,000 倍		収穫前日まで	2回以内		100~300
28	ベネビアOD	2,000 倍		収穫前日まで	3回以内		100~300
29	ウララDF	2,000 倍		収穫前日まで	3回以内		100~300
30	グレーシア乳剤	2,000 倍		収穫前日まで	2回以内		100~300
34	ファインセーブフロアブル	1,000~2,000 倍		収穫前日まで	3回以内		100~300

※ 上記以外で気門封鎖剤として、エコピタ液剤・オレート液剤・サフオイル乳剤・サンクリスタル乳剤・粘着くん液剤・フーモン・ムシラップがある。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町 180 番地 1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

